

令和8年度 シラバス 【理科】

科目名	単位数	学年	使用教科書	使用副教材
地学基礎	2	2	7 実教 地基007-901 地学基礎 新訂版	第一学習社 改訂 ネオパルノート地学基礎

◇科目の概要と目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高める。
- 地学的な事象・現象についての観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境を理解させ、地学的に探究する能力や態度を身に付ける。
- 地学的に探究する能力と態度を養う。
- 地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

◇科目の観点別評価の目標

知識・技能(商業は知識・技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

月	4月	5月	6月	7月		
科目名	単元1	単元2	単元3	単元4		
地学基礎	1章 地球の構成と運動 1節 地球の構造	1章 地球の構成と運動 2節 プレーートの運動	中間考査 1章 地球の構成と運動 3節 地震と火山	2章 大気と海洋 1節 大気と海洋の構造と運動 1.高度による気圧・気温の変化	期末考査	
知識・技能 商業は知識・技術	地球の形の特徴と大きさが理解できる。地球の赤道半径と極半径の違いから、球が厳密には球でないことが理解できる。	プレート分布と運動の様子が理解できる。大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けることができる。	評価問題として単元1・2の内の基礎用語に関する問いを約50点分で評価する。	火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解している。	気圧や気温の鉛直方向の変化を理解している。	評価問題として単元3・4の内の基礎用語に関する問いを約50点分で評価する。
思考・判断・表現	地球やマントルを構成する岩石の特徴を見だし、地球内部の密度や層構造について説明できる。	世界の地震分布と火山の地震の分布がプレート境界に対応することを見だし、プレートの運動によって地震活動や火山活動がもたらされることを理解している。	評価問題として単元1・2に関する記述問題等の思考問題・判断問題約50点分で評価する。	プレート境界地震とプレート内地震の発生の仕組みを理解し、それぞれなぜ地震が起こるのかプレート運動をもとに表現することができる。	資料に基づいて、大気の特徴を考察することができる。	評価問題として単元3・4に関する記述問題等の思考問題・判断問題約50点分で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	地球の形と大きさについて、どのような方法で調べたのか、また、実際の形や大きさはどうか、関心をもって意欲的に学習しようとする。	プレートの分布や運動がどのように大地形の形成や地質構造に関わっているのか、関心を持って意欲的に学習しようとする。	問題集の取り組み状況により評価する。	火山活動や地震発生の仕組みについて関心を持ち、その分布や原因・災害などについて意欲的に学習しようとする。	気圧や気温が高度とともに変化する点について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	問題集の取り組み状況により評価する。

月	7月	9月	10月	11月	12月	
科目名	単元5	単元6	単元7	単元8	単元8	
地学基礎	2章 大気と海洋 1節 大気と海洋の構造と運動 2.大気の大気循環 3.大気中の水とその状態 4.大気の状態	2章 大気と海洋 2節 大気大循環 3節 海洋の構造と海水の運動 4節 日本の四季の気象と気候	中間考査 3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 1節 宇宙の誕生 2節 太陽の誕生	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 3節 惑星の誕生と惑星の分類 4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層のつき方	期末考査	
知識・技能 商業は知識・技術	気圧や気温が高度とともに変化する点や、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏の違いを理解している。	大気と海洋の大循環について理解するとともに、それらの地球規模の流れと緯度による太陽放射の受熱量の変化などから、地球規模で熱が輸送されていることを理解している。	評価問題として単元5・6の内の基礎用語に関する問いを約50点分で評価する。	宇宙が約138億年前に誕生し、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の晴れ上がりとなるまでの過程を理解している。	宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について一連の流れを理解するとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解している。	評価問題として単元7・8の内の基礎用語に関する問いを約50点分で評価する。
思考・判断・表現	鉛直方向の気圧や気温の変化の特徴を見だしとともに、大気の大気循環が何をもちに分かれているのかを考察することができる。	海水が地球規模で循環していることを理解し、この循環や海流が地球規模の熱輸送において果たす役割について説明することができる。	評価問題として単元5・6に関する記述問題等の思考問題・判断問題約50点分で評価する。	太陽が自転していることや自転周期が緯度によって異なることについて、黒点の位置の観測を通して考察し、適切に表現することができる。	太陽系の惑星の特徴を理解し、地球型惑星と巨大ガス惑星、巨大氷惑星の違いについて、その形成過程の違いから説明することができる。	評価問題として単元7・8に関する記述問題等の思考問題・判断問題約50点分で評価する。
主体的に学習に取り組む態度	大気の大気循環について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	大気と海洋の大循環によって地球規模で熱輸送が行われていることに関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	問題集の取り組み状況により評価する。	宇宙や太陽系、地球の誕生について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	地球が誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程について関心を持ち、太陽系における地球について科学的な見方・考え方を身に付けようとする。	問題集の取り組み状況により評価する。

月	12月	1月	2月	3月 年間	
科目名	単元9	単元10	単元11	学年末考査	
地学基礎	4章 古生物の変遷と地球環境の変化 2節 化石と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球環境	5章 地球の環境 1節 日本の自然環境	5章 地球の環境 2節 地球環境の科学	学年末考査	総合評価
知識・技能 商業は知識・技術	地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。	日本列島における自然環境の特徴について理解し、自然環境の恵と自然災害のリスクについて理解している。	地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。	評価問題として単元9・10・11の内の基礎用語に関する問いを約50点分で評価する。	1年間を通じて、地球および地球を取り巻く環境に関する知識について説明できるかを評価する。
思考・判断・表現	地球環境の変化に関する資料に基づき、地質時代を通して生物の活動が大気や水に与えた影響や、大気の変化が生物に与えた影響について見いだすことができる。	自然災害の起る原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。	エルニーニョ現象やオゾンホールが発生する仕組みについて理解するとともに、それらの現象がもたらす影響について理解し、適切に説明できる。	評価問題として単元9・10・11に関する記述問題等の思考問題・判断問題約50点分で評価する。	1年間を通じて、地球および地球を取り巻く環境について、班で話し合い、積極的に取り組めたかを評価する。
主体的に学習に取り組む態度	地形や地層、化石について意欲的に観察や実験を行い、それらが作られた環境や原因を学び、地球の歴史を解き明かす方法と特徴を学習しようとする。	日本の自然環境がもたらす災害と恵について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	地球規模の自然環境やそこで起きている環境変化について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	問題集の取り組み状況により評価する。	取り組む姿勢を評価の参考にする。